

「尾張旭市第4期地域福祉計画（素案）」に対する意見と市・社会福祉協議会の考え方

主な関連ページ	意見の概要	市・社会福祉協議会の考え方（案）
<p>P50 P52 P127</p>	<p>・小学校には授業を理解できないままの子どもたちがおり、学校から親に連絡があったとしても、親が何もしなければ放置されている。人並みでなくてよいので個々のレベルで勉強の楽しさを教えて、社会が自分を守ってくれると思わせて欲しいです。</p> <p>日本では親の考えで勉強を妨げられるが、オランダでは「子ども・教員・保護者を内包する一つの共同体」イエナプランの考えの下で、子ども1人ひとりの能力や資質、本人の希望により様々な選択ができるようになっています。</p> <p>日本の学校に外部の目が入る環境づくりが大切だと考えています。例えば、必要に応じて自治体を中心に補充教育を行うなどの仕組みを用意すべきではないでしょうか。</p>	<p>・本市では小中学校の教職員を加配し、少人数指導に取り組むことで、個に応じたきめ細やかな指導の継続、基礎学力の定着を目指しております。</p> <p>いただいたご意見については、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
<p>P4</p>	<p>・福祉政策を安上がりに実行できるよう、自助共助に頼ろうとしている考え方が、そもそも間違っていると思うので、いずれこの計画は破綻する。地域の活動を担いうる、地域団体組織は加入者の減少傾向が続き、存続の危機に直面しているところが多いと思う。根本的な解決策として、余裕の無い働き方に人々を追いやってきた、労働関係法令などを見直すことが、先決ではないでしょうか。それにより、地域の活動に目を向ける余裕を、人々に与える必要があると思います。</p>	<p>・働き方などの多様化により生活環境の変化はありますが、自身や家族が自らを支える「自助」、隣近所での助け合いなどの「互助」、介護保険などの制度化された支え合い仕組みによる「共助」、行政などが支援する「公助」が相互に連携することで「支援のすき間」を埋められるような役割が求められています。これにより地域の重層的なセーフティネットの構築を目指してまいります。また、労働関係法令などにも注視をしてまいります。</p>